

# 情報連絡員報告総括表(平成28年3月分)

三重県中小企業団体中央会  
 連絡員総数 40名  
 回答数 40名 (100%)

業界の景気動向(前年同月比)

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 (臨時・パートを含む)			業界景況			
	増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化	
製 造 業	食 料 品		4		4		1	3			4			3	1		3	1		3	1		4			3	1	
	織 維 工 業		1	2		3		1	2			2	1		1	2		2	1		2	1		3			1	2
	木 材 ・ 木 製 品			1			1		1				1			1		1			1			1				1
	紙 ・ 紙 加 工 品		2			2		2			2			1	1		2			1	1		1	1		1	1	
	印 刷			1		1		1			1			1			1			1			1			1		
	化 学 ・ ゴ ム																											
	窯 業 ・ 土 石 製 品	3				2	1		3		3		1	2			3		2	1			3			3		
	鉄 鋼 ・ 金 属	1				1			1		1		1			1			1			1			1			
	一 般 機 器	1		2	2	1			3		3		1	1	1		3			2	1		3			2	1	
	電 気 機 器			1		1				1					1						1		1				1	
	輸 送 機 器			1		1				1				1							1		1				1	
そ の 他																												
小 計	5	7	8	2	16	2	2	16	2		17	3	3	9	8	1	15	4	3	10	7	1	18	1	1	11	8	
非 製 造 業	卸 売 業	1		1		2			2			2		1	1			2					2			1	1	
	小 売 業	2	2	2		5	1	4	2		5	1		2	4		3	3					6			4	2	
	商 店 街		1			1			1		1			1			1						1			1		
	サ ー ビ ス 業	1	2	2				1	3	1	1	4		1	2	2		4	1				1	2	2	1	3	1
	建 設 業		2	2					4			4			2	2		4						4			2	2
	運 輸 業	1							1			1		1				1					1			1		
	そ の 他		1						1			1		1				1					1			1		
小 計	5	8	7		8	1	5	14	1	1	18	1	3	9	8		16	4				1	17	2	1	13	6	
合 計	10	15	15	2	24	3	7	30	3	1	35	4	6	18	16	1	31	8	3	10	7	2	35	3	2	24	14	

## 最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

(平成27年3月～平成28年3月)

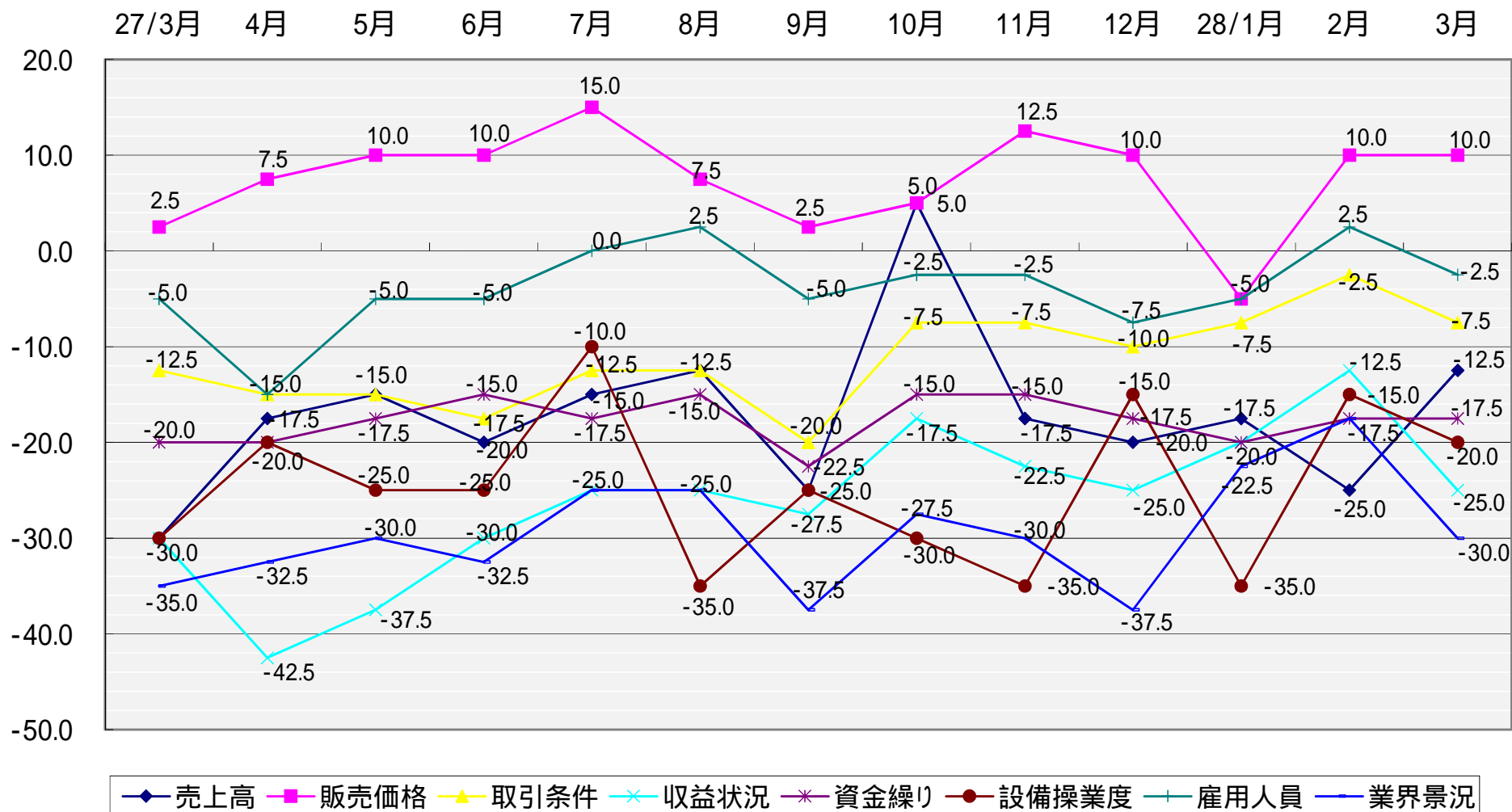
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	27/3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	28/1月	2月	3月	増減
売上高	-30.0	-17.5	-15.0	-20.0	-15.0	-12.5	-25.0	5.0	-17.5	-20.0	-17.5	-25.0	-12.5	12.5
販売価格	2.5	7.5	10.0	10.0	15.0	7.5	2.5	5.0	12.5	10.0	-5.0	10.0	10.0	0.0
取引条件	-12.5	-15.0	-15.0	-17.5	-12.5	-12.5	-20.0	-7.5	-7.5	-10.0	-7.5	-2.5	-7.5	-5.0
収益状況	-30.0	-42.5	-37.5	-30.0	-25.0	-25.0	-27.5	-17.5	-22.5	-25.0	-20.0	-12.5	-25.0	-12.5
資金繰り	-20.0	-20.0	-17.5	-15.0	-17.5	-15.0	-22.5	-15.0	-15.0	-17.5	-20.0	-17.5	-17.5	0.0
設備操業度	-30.0	-20.0	-25.0	-25.0	-10.0	-35.0	-25.0	-30.0	-35.0	-15.0	-35.0	-15.0	-20.0	-5.0
雇用人員	-5.0	-15.0	-5.0	-5.0	0.0	2.5	-5.0	-2.5	-2.5	-7.5	-5.0	2.5	-2.5	-5.0
業界景況	-35.0	-32.5	-30.0	-32.5	-25.0	-25.0	-37.5	-27.5	-30.0	-37.5	-22.5	-17.5	-30.0	-12.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

### 最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票 (三重県中小企業団体中央会・平成28年3月分)

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製造業	食料品	醤油味噌	平成27年度は前年を少し割れて終了の見込みである。全国でもほぼ同様である(99%)。サミット関連の三重、伊勢志摩フェアでは、「三重しょうゆ街道」イベントがあり、4月8日～10日 イオン越谷レイクタウン店、4月15日～18日 イオン東員店、4月20日～24日 イオン伊丹店に出展参加する。「しょうゆもの知り博士」の県内の小学校への出前授業は、平成27年度は48件であり、全国では581件であった。
		豆腐	平成27年産国産大豆は、平成25年、26年産に比べ、安値になると思われる。
		麺	伊勢志摩サミットの開催が迫っている中、三重の商品として伊勢うどんのPR活動の取組を行っている。また、手打ちうどん作り教室を開催するなどして、三重県産小麦もアピールしていく。
	紙・紙加工品	紙器段ボール	穏やかな天候で食品、農産物もますますの出荷となった。例年並みの売上がキープ出来そうである。
		古紙	3月期の仕入れ量は前年比で、段ボール：約97%±5%、新聞、チラシ：約95±6%、雑誌、雑紙、その他合わせて：約93±6%の中での推移の見込みである。年度末と春物野菜等で前月比では古紙の発生は良い。しかしながら、地域や取引業者によってバラつきがあり、上記のような数字になる。アベノミクスや消費税増税など何時まで先延ばしをするのか。国民が本当に元気になる政策が打てないものか。EUの難民やユーロの危機・ISのテロ、中国パプルの崩壊等の経済ショックの準備をしたいが、現状も先行きも不安で一杯である。少子高齢化と人口減少、消費活動の変化による紙の消費減は変わらず、更に持ち去られた古紙が流通し、古紙の入荷は減る一方である。業界一丸となって持ち去り古紙の流通を止め、社会正義の下の商売が出来るのはいつのことが、安全で健全なりサイクル活動が妨げられている。
	印刷	印刷	年度末の繁忙期ではあったが、例年に比べると若干減少傾向であった。また、官公庁をはじめ多くの印刷物は、年度内納品厳守のものが、年々増加しているため、年度初めは非常に厳しい状況になる。
	窯業・土石製品	伊賀焼	伊賀焼伝統産業会館、伊賀・信楽古陶館ともに昨年と比べ、売上は若干増加した。また、年間を通して、ガソリン安やNHKBS放送(土鍋等)の影響もあってか、伊賀焼伝統産業会館では、過去5年間で最高の売上と入館者数を記録したが、伊賀・信楽古陶館にあっては、大きな変化はない。
	鉄鋼・金属	鍍金	業界全体の生産量としては、2月と同様多少の伸びがみられた。組合全体でも増加傾向である。ただ、取扱う製品により、増加、減少と分かれた事は変わらない。自動車関連は、戻り傾向にあった。半導体関連は、3月決算の絡みで生産量の調整がみられ、若干減少したが、好調さは6月までは続く見込みである。
	一般機器	四日市	このところ、景気に低迷観が感じられ、企業の投資意欲も減少傾向にあり、仕事量もやや落ち込み気味である。消費動向も弱含みである。相変わらず中小企業を取り巻く環境は厳しい。
		鈴鹿	先月から特に変化はない。
	電気機器	鳥羽	下期の動きを期待していたが、12月～3月までの受注量は昨年と比べ、10%弱減少となり、価格競争が一段と増す状況である。
	輸送機器	鈴鹿	新年度の納入単価について取引先からの価格見直し(=値下げ)の要求があった。大手自動車メーカーからの価格見直し要求が順次に降りてきているということである。中には、2020年度までに合計で20%ダウンという目標を強いてくる大手自動車部品メーカーもある。いつものことながら、従業員の賃金アップをしたくてもできない。下請企業から捻出されたものが大手企業での昇給分に回っているのかと思うと非常にやるせない。
	非製造業	小売業	青果
自転車			今年は通学用自転車(春需)が例年よりも動きが早く、県内においては順調に商品を入荷した。早からの予約により、3月上旬には一部のメーカーの欠品、売り切れが出たが、中旬にはその動きはなくなった。生徒数が減少しているが、価格を下げたことにより、売上の多少のアップがあったものの、台数は約20%弱の落ち込みであった。自転車は学校へ通う手段の必需品ではあるが、一部は低価格商品へ移動した傾向も見られた。

非製造業	小売業	家電	3月度は、各メーカーの主催で地区合同展示会が開催され、いよいよ平成28年度の春商戦がスタートした。来場者数は前年並みかややダウン、販売もやや苦戦という状況である。商品別では、調理家電の実演販売やオール電化、リフォームの提案による販売が下支えをしているものの、テレビ・エアコンが不調の中、4Kテレビへの買い替えやエコキュートが好調に推移している。4月より電力自由化がスタートし、お客様の関心も高まると思われ、家庭の電気の「創エネ」「蓄エネ」「省エネ」によるスマートライフの提案も重要である。引き続きお客様の困り事にお応えする活動を推進していく。
		石油	3月の燃料油販売数量は、前年対比4%～5%の減販状況であった。販売価格においても、先月同様に燃料油販売数量の前年対比を維持するために仕切り値上げ分の価格転嫁が思うように行えない状況であった。来月は各元売の大幅な仕切り値上げの影響の為、店頭価格も値上げになる。今後、増々、自動車燃料油増額を期待するのは、難しい状況になるが、主体として、洗車、オイル、タイヤの販売強化を行いたい。
		スポーツ用品	3月、4月は、学校の新入生の体育服装、クラブのユニフォームのサイズ図り等活動が忙しくなる。伊勢志摩サミットが5月にあるが、何か前向きなビジネスでもあればうれしいが、全く関係なさそうである。しかし、インターハイ（平成30年開催）の準備が平成28年度に入り始まると思うので、ビジネスチャンスがあればと考えている。
	商店街	熊野	昨年7月より展開した商店街内の空き店舗チャレンジショップ事業は2月末にて初めての契約者との半年間の契約期間を終え、3月より新たな出店事業者との契約が始まり、店舗がスタートした。次年度は、店舗内のトイレの改修も予定しており、魅力あるチャレンジショップとして展開していく予定である。
	サービス業	旅館	サミットの開催日が近づく程、風評による影響が強くなり、特に、既に警備が始まっており、交通規制も行われているかのように思われているようである。春休みの期間は例年満館に近い日が続いていたが、今年は低調であった。訪日インバウンドのツアーは、伸びていたようであるが、全般的には対前年比を割っていた。
		飲食業	消費税が平成29年4月より、10%へと引き上げられることが予定されており、飲食業では軽減税率の適用の業態が、テイクアウトや出前等のいわゆる店内においての外食を除く部分に該当することとなっている。現時点では、支援措置として、複数対応レジスターの導入にあたっての補助金や、団体で行う場合の周知対応や講習会を実施するにあたっての費用等、政府が支援策を打ち出しているものの、今後、導入までの間、事業者間での混乱が予想されることから、順次会員に周知していく必要があると思われる。
		警備	年度末であり、臨時警備員の雇用等に努め、何とか仕事量をこなした結果である。
	建設業	建設業	年間の公共事業費は増加しているものの、県内の企業が受注できる案件は減少している。当月の減少は、補正予算による工事発注が前年度に比べ減少したことによる。
		内装工事業	年度末ということもあり、売上は前月に引き続いて増加傾向にあるが、前年比には及ばなかった。
		水道工事業（四日市）	今月は年度末ということもあり、多忙な状況が続いた。そのため、人出不足の傾向も強まった。
運輸業	トラック	内需に停滞感が見られる。	

### 行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	今まで通り、イベント等を積極的に取り組んでいく。また、三重のイベントの開催の日程など教えていただきたい。
一般機器	四日市	政府の中小企業対策に問題があると感じる。マイナス金利等、景気浮上の政策も具体性に欠ける。この国の将来が心配だ。
	伊勢	非上場の中小企業の株式について、相続時に非常に負担となっている。会社の経営体質、財務内容を良くしようとすればするほど、株式評価額の上昇となり、相続税の増加につながる。中小企業経営者が苦しめないような抜本的な改革を望む。
サービス業	旅館	高速道路の電光掲示板、看板等で「サミットによる交通規制中」と表示されているが、規制期間が5月25日～5月28日と決定されているので一日も早く期間を入れた表示に訂正するように関係機関に要望してもらいたい。
輸送業	トラック	国内の消費拡大施策に対する対策を講じていただきたい。